

## 新潟支援報告書

所属名	(保健師) 保健福祉局健康部地域保健課	報告者	藤山明美(53歳) 竹内三津子(44歳)
派遣期間	平成16年10月27日(水)～平成16年11月28日(日)		
派遣先	市町名	小千谷市	
	場所・部署等	小千谷市健康センター、小千谷市総合体育館	
支援活動 (箇条書き)	<p>神戸市保健師は、6班の派遣を行い、下記の活動を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 応援保健師受入れ資料整備、助言</li> <li>・ 避難所環境状況確認</li> <li>・ 避難所マップ作成の助言</li> <li>・ 避難所健康状況調査、集計、分析</li> <li>・ 避難所巡回、要支援者の把握とフォローの助言</li> <li>・ 避難所活動記録作成</li> <li>・ 健康情報紙の作成</li> <li>・ 地域健康状況訪問調査、集計、分析</li> <li>・ 地域要支援者相談票の整理</li> <li>・ 通常業務開始に向けての助言</li> <li>・ 仮設住宅での健康管理など対応についての準備・保健指導のポイントの助言</li> <li>・ 仮設住宅建設現場視察</li> <li>・ 応援保健師のミーティング参加</li> <li>・ 小千谷市保健師との今後の活動について助言</li> </ul>		
課題を含めた感想等	<p>神戸市は、阪神・淡路大震災の経験と応援を受けたことを踏まえて、できるだけ早期に支援に行くことが重要との認識のもと現地に赴いた。地域の実情等、阪神・淡路大震災とは違いがあるが、震災を経験しているからこそ、避難所～地域～仮設住宅での対応や通常保健事業の再開に向けての準備など、これから予想されること、必要なことについて助言し、小千谷市の保健師が、今後の見通しを立てることにつながったと考えられる。</p> <p>また、被災時期、程度や地域性によって、対策は一律ではなく、経験の上に、状況に応じた判断力が必要であり、日頃からの災害保健活動を意識した業務への取り組みと専門知識の習得の必要性も痛感した。支援活動を行いながら、危機管理意識が高まり、学ぶことも多くあった。反面、神戸市の保健師の3分の1は、災害保健活動の経験をしておらず、災害を想定した擬似研修の実施などが必要であることを再確認した。</p> <p>今回、後方支援という立場で支援を行ったが、被災地の保健師が活動しやすいように、客観的な視点で助言することや的確で迅速に支援を行うことの重要性を感じた。支援においては、調査結果の集計や健康情報提供のための情報の収集整理にIT機器の活用が有効であった。</p> <p>この支援経験および阪神・淡路大震災の保健活動を踏まえて、災害時の保健活動マニュアルを現在作成中であり、マニュアル内容、帳票、健康情報をCD化し、効率的に災害時に活用できるものになりたいと考えている。</p>		